

GMB 株式会社

2020年3月期第2四半期 決算説明資料



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する(当期)純利益」を「純利益」として表示しております。



I. 2020年3月期上期実績

II. 2020年3月期通期見通

III. 今後の対応

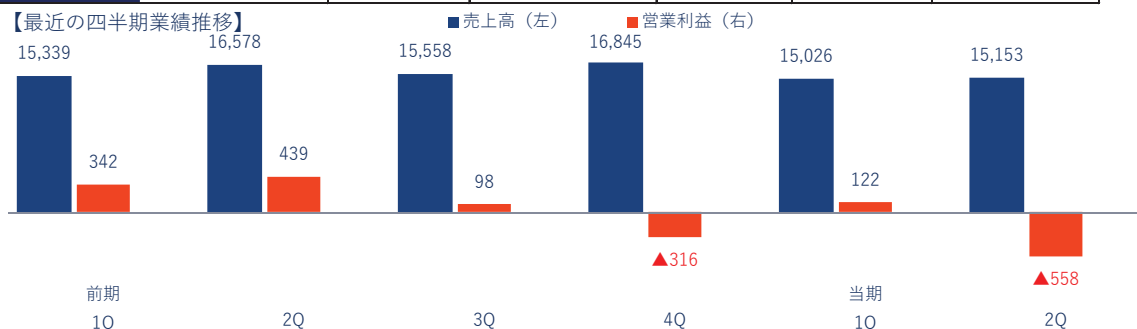
2020年3月期上半期 損益実績



(単位: 百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	31,917	(100.0%)	30,179	(100.0%)	▲1,737	(▲5.4%)
売上総利益	5,407	(16.9%)	4,400	(14.6%)	▲1,006	(▲18.6%)
営業利益	782	(2.5%)	▲435	(▲1.4%)	▲1,217	(-)
経常利益	981	(3.1%)	▲446	(▲1.5%)	▲1,428	(-)
純利益	635	(2.0%)	▲564	(▲1.9%)	▲1,199	(-)
EPS(円)	121.92		▲108.12			

【最近の四半期業績推移】

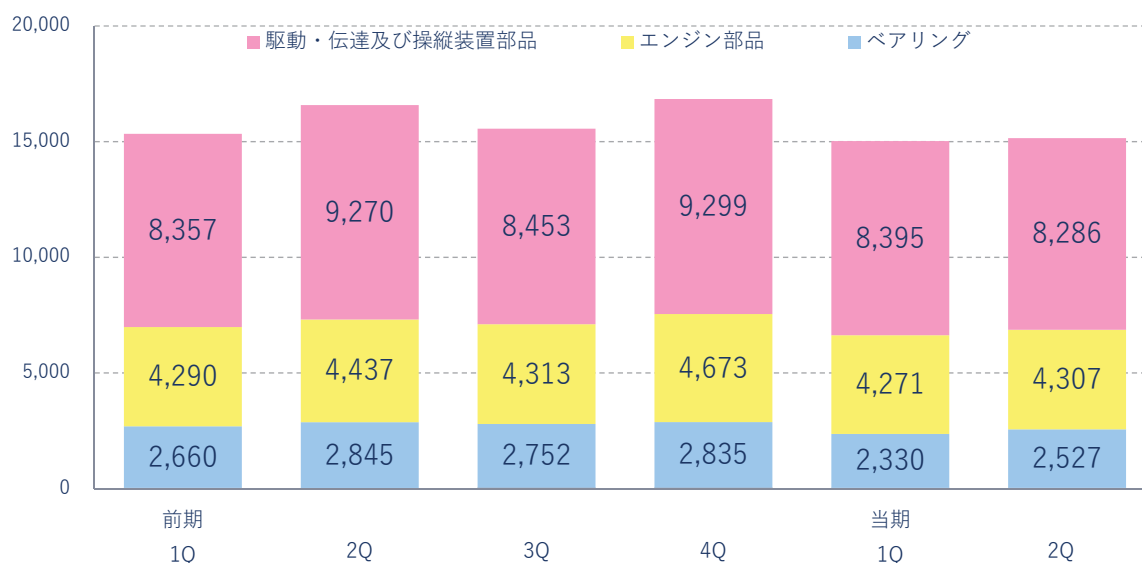


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位: 百万円)



駆動系では、韓国の新車用の等速ジョイントが増加した一方で、欧州の新車用ユニバーサルジョイントや中国のバルブスプールが減少。エンジン部品では、韓国での電動ウォーターポンプが増加した一方で、主に韓国や米国でのウォーターポンプが減少。ベアリングは、韓国や米国でテンショナー・アイドラー・ベアリングの販売が減少。

- 4 -

セグメント実績推移① 日本・米国



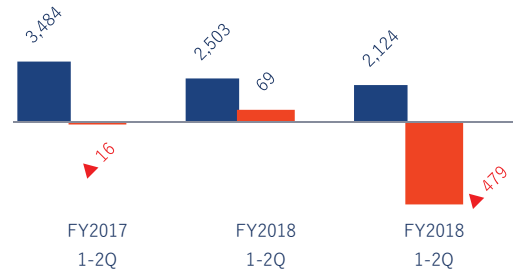
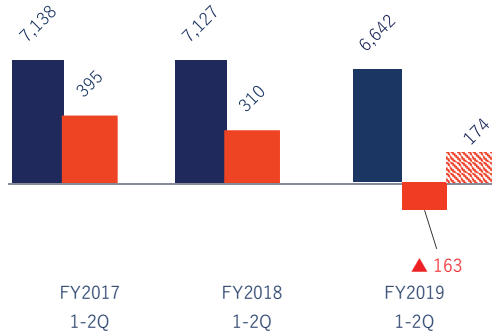
※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

日本

米国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値



主に欧州向けのユニバーサルジョイントの減少により減収。また、ユーロ建て輸取出引の円高ユーロ安による採算悪化の影響や、役員退職慰労金を含む人件費の増加などにより減益。

大手販売先取引の採算悪化が改善しなかったことに加え、売掛金や棚卸資産等の評価に伴う費用増加などの結果、大幅に赤字。

セグメント実績推移② 韓国・中国

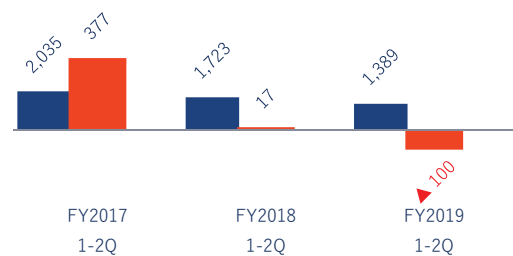
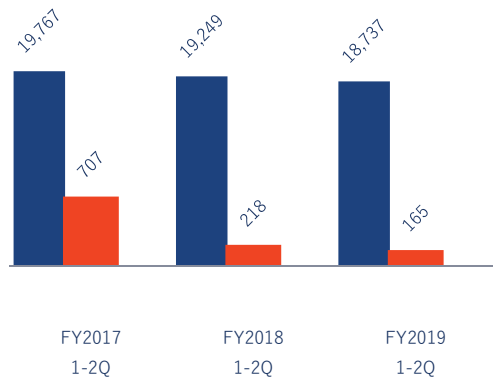


(単位：百万円)

韓国

中国

■ 外部売上高 ■ 営業利益



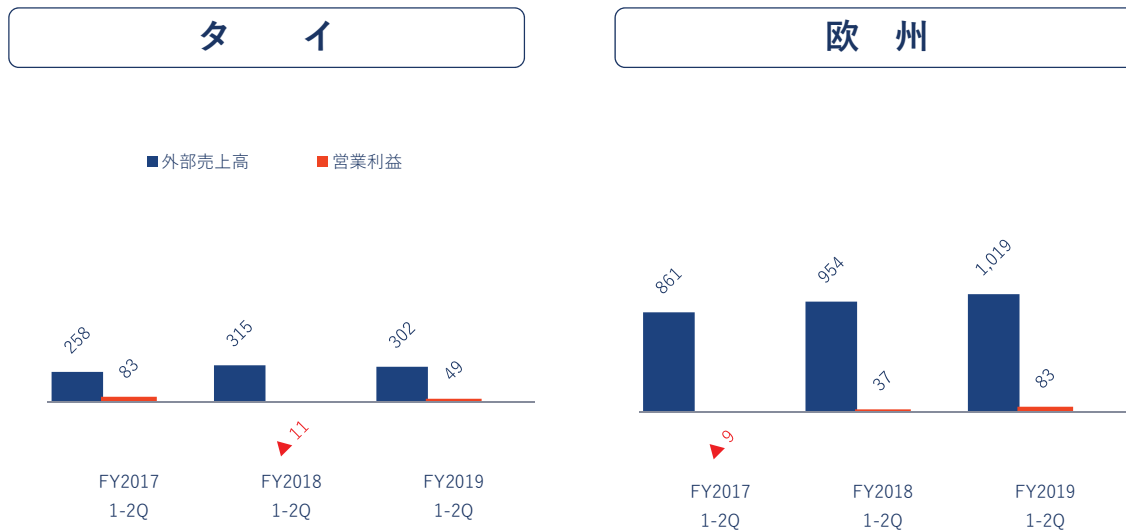
電動ウォーターポンプや等速ジョイントなどの新車用部品は伸びたものの、補修用部品販売が減少し、前年比で微減。また、販売の減少や販売価格の変動、人件費増加をコスト削減努力で補いきれず、減益。

中国国内の新車用部品の販売減少や、新車用部品の単価変動による採算悪化、さらに人件費などの上昇により、減収減益。

セグメント実績推移③ タイ・欧州



(単位：百万円)



タイ国内販売は減少したが、日本向けの補修用サスペンションなどの生産量が増加した結果、黒字転換。

ルーマニア工場、ロシア工場ともにウォーターポンプなどの販売が順調に推移し、コスト改善も進み、増収増益。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	782	▲435	▲1,217
営業外収益	505	396	▲109
(うち為替差益)	(188)	(28)	(▲159) ※1
(うち持分法投資利益)	(104)	(76)	(▲27)
(うちデリバティブ評価益)	(103)	(78)	(▲24)
営業外費用	306	407	101
(うち金融費用)	(276)	(349)	(73)
(うち為替差損)	(-)	(-)	(-)
経常利益	981	▲446	▲1,428
特別利益	5	18	12
特別損失	13	122	109
(うち減損損失)	(-)	(115)	(115) ※2
税引前利益	973	▲551	▲1,525
法人税等	237	83	▲154
少数株主持分損益	100	▲70	▲171
四半期純利益	635	▲564	▲1,199

※1
主に日本とタイで悪化

※2
韓国のAT部品工場
中国の南通工場の収益悪化による

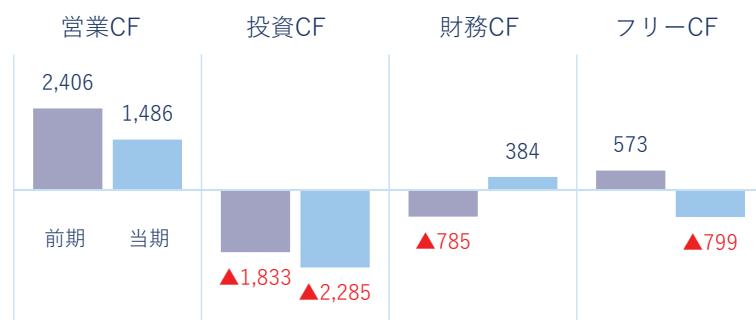
キャッシュ・フローの実績 (1-2Q)



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,406	1,486	▲920
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,833	▲2,285	▲452
財務活動によるキャッシュフロー	▲785	384	+1,169
フリーキャッシュフロー	573	▲799	▲1,372

【 当期の主な内訳 】

● 営業CF	
税金等調整前利益	▲551 百万円
減価償却費	1,772
売上債権の減少	889
たな卸資産の減少	231
仕入債務の減少	▲484
法人税の支払額	▲145
● 投資CF	
設備投資	▲2,543
固定資産売却	66
● 財務CF	
借入金の増加	514
配当金の支払額	▲129



- 9 -



I. 2020年3月期上期実績

II. 2020年3月期通期見通

III. 今後の対応

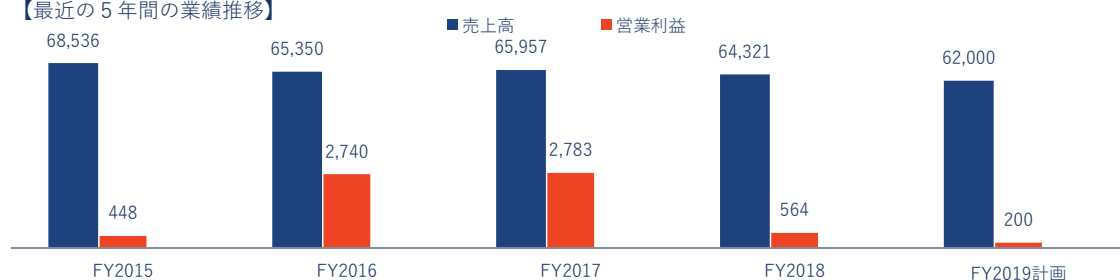
2020年3月期 損益計画



(単位：百万円・%)

	FY2018	FY2019			前期比
	(通期実績)	(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	
売上高	64,321 (100.0%)	30,179 (100.0%)	31,821 (100.0%)	62,000 (100.0%)	▲2,321
営業利益	564 (0.9%)	▲435 (▲1.4%)	635 (2.0%)	200 (0.3%)	▲364
経常利益	426 (0.7%)	▲446 (▲1.5%)	446 (1.4%)	0 (-)	▲426
純利益	226 (0.4%)	▲564 (▲1.9%)	224 (0.7%)	▲340 (▲0.5%)	▲566
EPS(円)	43.37	▲108.12	-	▲64.99	

【最近の5年間の業績推移】

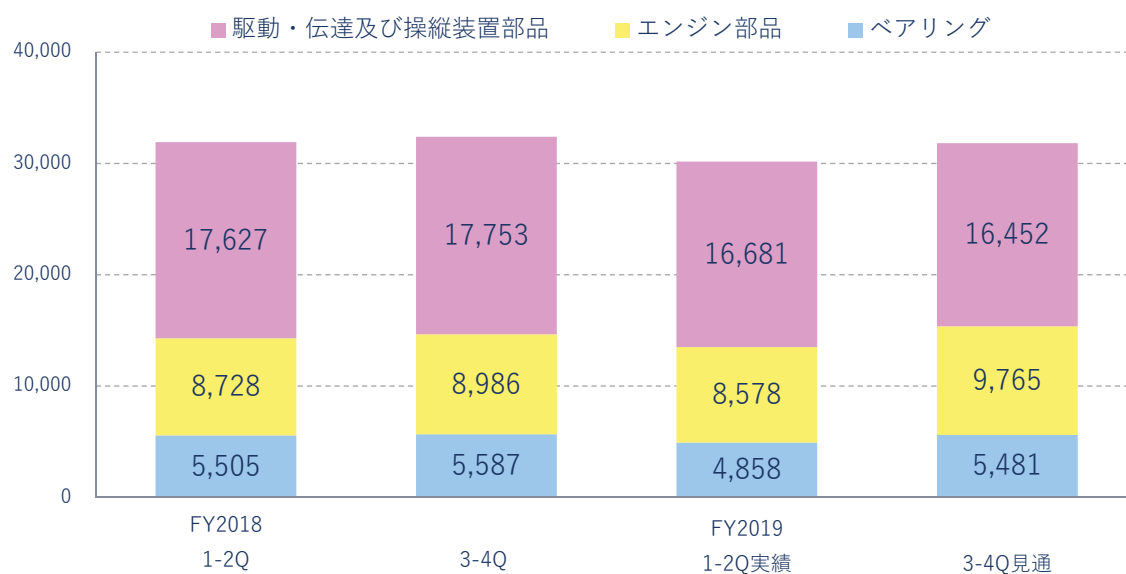


-11-

売上高の品目分類別計画 (半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では、韓国の新車向けバルブスプール等の販売減少を見込む。エンジン部品は、電動ウォーターポンプや欧州向けの新車用ウォーターポンプ、米国での販売増加を見込む。ベアリングは、主に韓国からの海外への輸出増加を見込む。

-12-

セグメント計画① 日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

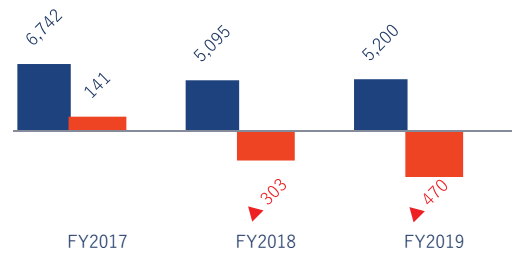
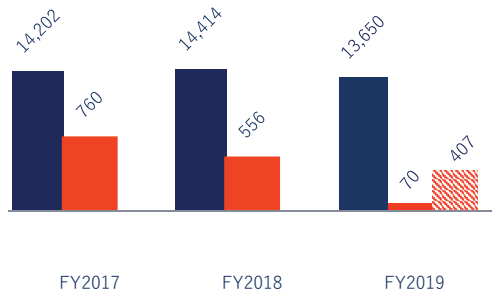
(単位：百万円)

日 本

米 国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値

■ 外部売上高 ■ 営業利益



主に欧州向けのユニバーサルジョイントの減少により減収見込み。また、上期に発生した役員退職慰労金や、上期に引き続きユーロ建て輸出取引の円高ユーロ安による採算悪化の影響により、減益を見込む。

下期からスタートする大口案件の影響により通期では増収を見込む。一方、上期に発生した資産評価に伴う費用による落ち込みを取り戻すまでには至らず、減益の見通し。

セグメント計画② 韓国・中国

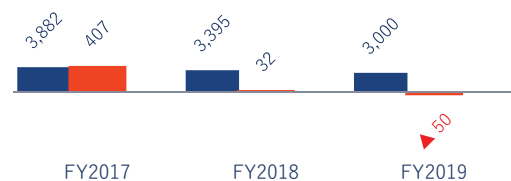
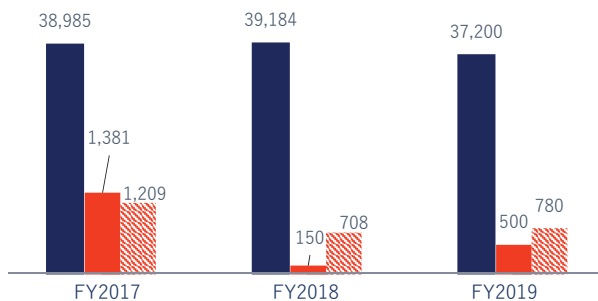


(単位：百万円)

韓 国

中 国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
※退職給付債務の数理計算上の差異を除いた参考値



電動ウォーターポンプや等速ジョイントなどの新車用部品の販売が増加し、ウォンベースでは増収見込。また、販売価格の変動や人件費増加、開発費の増加などを販売増加やコスト削減努力で吸収し、増益見込。

中国新車用部品市場向けのバルブスプールやウォーターポンプ等の販売が減少し、販売価格の変動や人件費の増加によって利益が圧迫され、減収減益となる見込み。

セグメント計画③ タイ・欧州

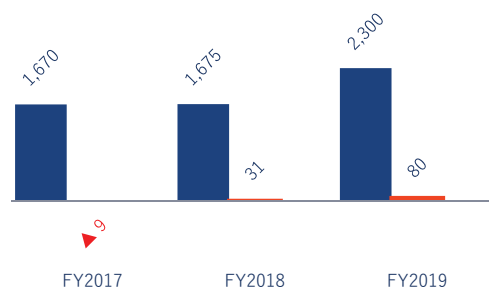
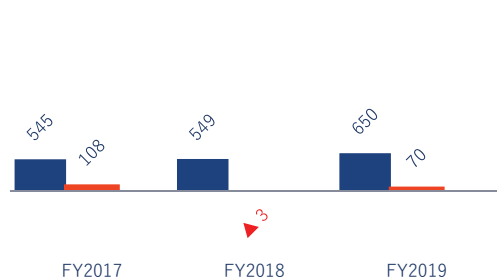


(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



国内向けのウォーターポンプが下期にやや持ち直す影響で増収見込み。加えて、日本向けの補修用サスペンションの販売などが引き続き利益貢献し、黒字転換の見込。

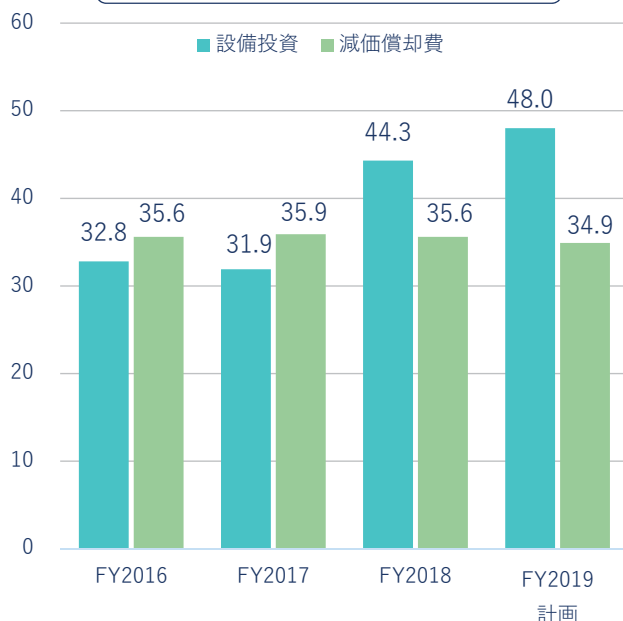
ルーマニア工場では、欧州向けの新車用ウォーターポンプの販売が増加することに加え、部品の現地調達などのコスト改善により、増収増益を見込む。ロシア工場では、為替要因による減益を想定するものの、黒字は確保する見込み。

設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移



FY2019 設備投資計画の内訳 (カッコ内は当初計画)

	投資額	主な内容
日本	5.0 (7.0)	維持・合理化
韓国	22.0 (20.0)	新規開発・増産・更新等
中国	6.5 (8.5)	増産・合理化
タイ	3.0	合理化
欧州	11.5	新工場建設
計	48.0 (50.0)	

I. 2020年3月期実績

II. 2020年3月期計画

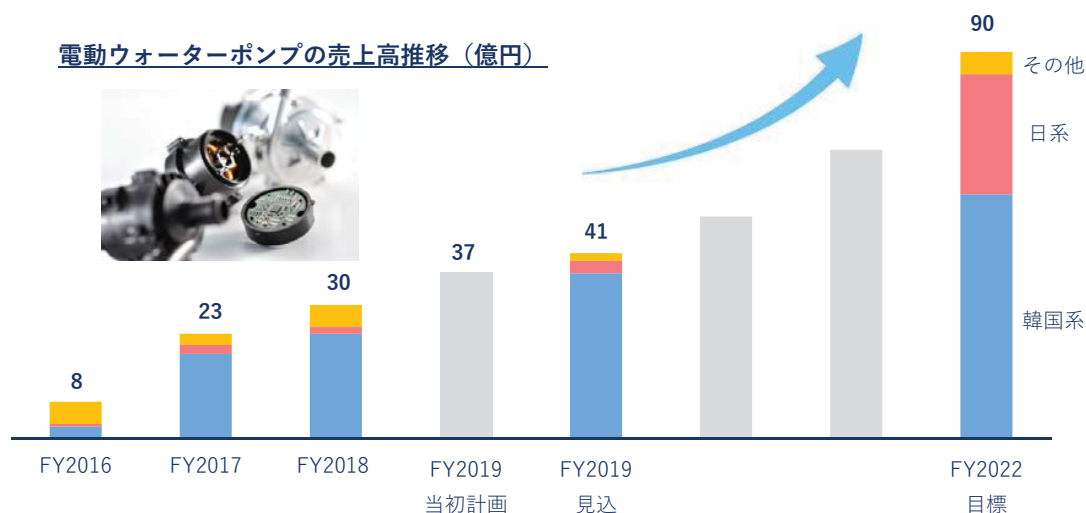
III. 今後の対応

電動化対応

電動ウォーターポンプの拡販&関連部品の新規開発

- 販売は計画を上回って順調に進行中
- 電動オイルポンプやITM(熱管理関連部品)などの新製品で新規受注を獲得

電動ウォーターポンプの売上高推移 (億円)



営業体制強化の取り組み



GMB Oceania Pty Ltdを設立

- ・ オーストラリアで設立した販売子会社
- ・ 現地補修用部品市場での販売体制や既存顧客に対するサービス強化のために設立
- ・ 2020年1月より営業開始



大阪市内に営業所を設立

- ・ 補修用部品関連の営業体制強化のため設立
- ・ 設立により、大阪市内の取引先との関係深耕や人材獲得などの効果を見込む



- 19 -

中期経営計画に向けて



FY2020~2022 3ヶ年中期経営計画策定中

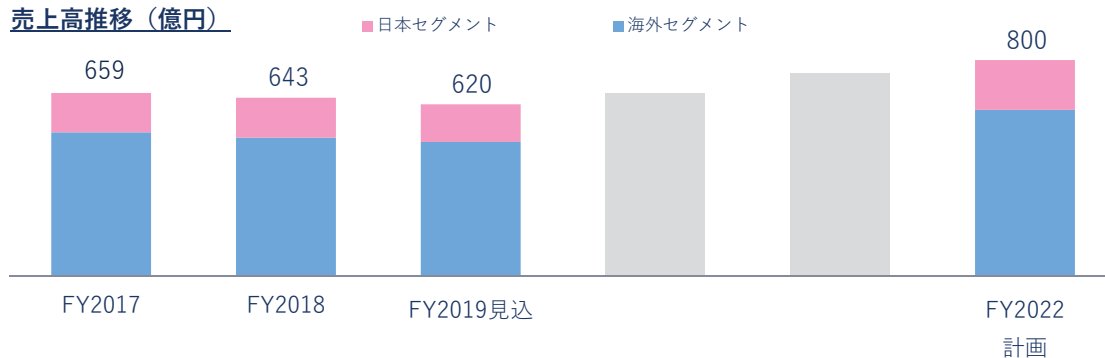
日本

- ・ ユニバーサルジョイントの生産能力拡充
- ・ 既存市場でのシェア拡大
- ・ 品揃えの拡充

海外

- ・ 電動化に対応する新製品の開発推進
- ・ 海外現地生産強化（ルーマニア・タイ）
- ・ 中国国内の新規取引先開拓

売上高推移（億円）



- 20 -

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

<お問い合わせ先>
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp

GMB株式会社

事業内容説明資料 (2019年3月期)

(証券コード : 7214)

<https://www.gmb.jp/>

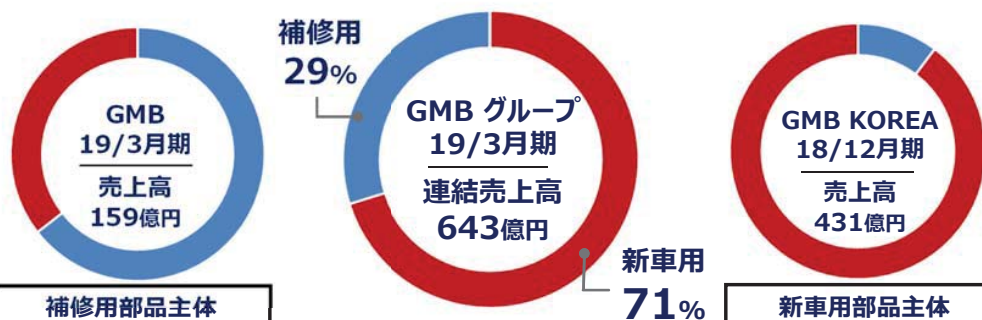
注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満で切捨して記載しております。



GMBグループの概要①

商 号 : GMB株式会社	売 上 高 : 64,321百万円 (単体 15,913百万円)
創 業 : 1943年 (昭和18年)	営 業 利 益 : 564百万円 (単体 32百万円)
代表取締役会長 : 松岡 信夫	総 資 産 : 65,773百万円 (単体 21,011百万円)
代表取締役社長 : 松波 誠	純 資 産 : 30,012百万円 (単体 12,838百万円)
所 在 地 : 奈良県磯城郡川西町大字吐田150番地3	
事 業 内 容 : ユニバーサルジョイント、ウォーターポンプなどの自動車部品製造・販売	
グ ル ー プ 会 社 : 12社 / 韓国③ (6工場・研究所)、米国① (2拠点)、中国④ (3工場・2拠点)、タイ② (2工場)、ロシア①、ルーマニア①	
従 業 員 : 2,671名 (単体 336名)	

日韓GMBを主体に補修用部品と新車用部品に取組む独立系自動車部品メーカー



GMBグループの概要②

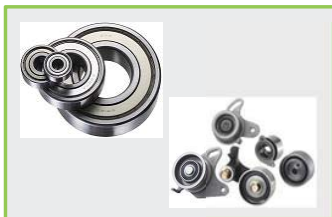


GMBの主要取扱製品

17%

ヘアリング他

テンショナー&アイドラー・産業用



55%

駆動・伝達・操縦装置用部品

ユニバーサルジョイント 等速ジョイント



バルブスプール

サスペンション



28%

エンジン部品

ファンクラッチ

ウォーターポンプ

電動ウォーターポンプ

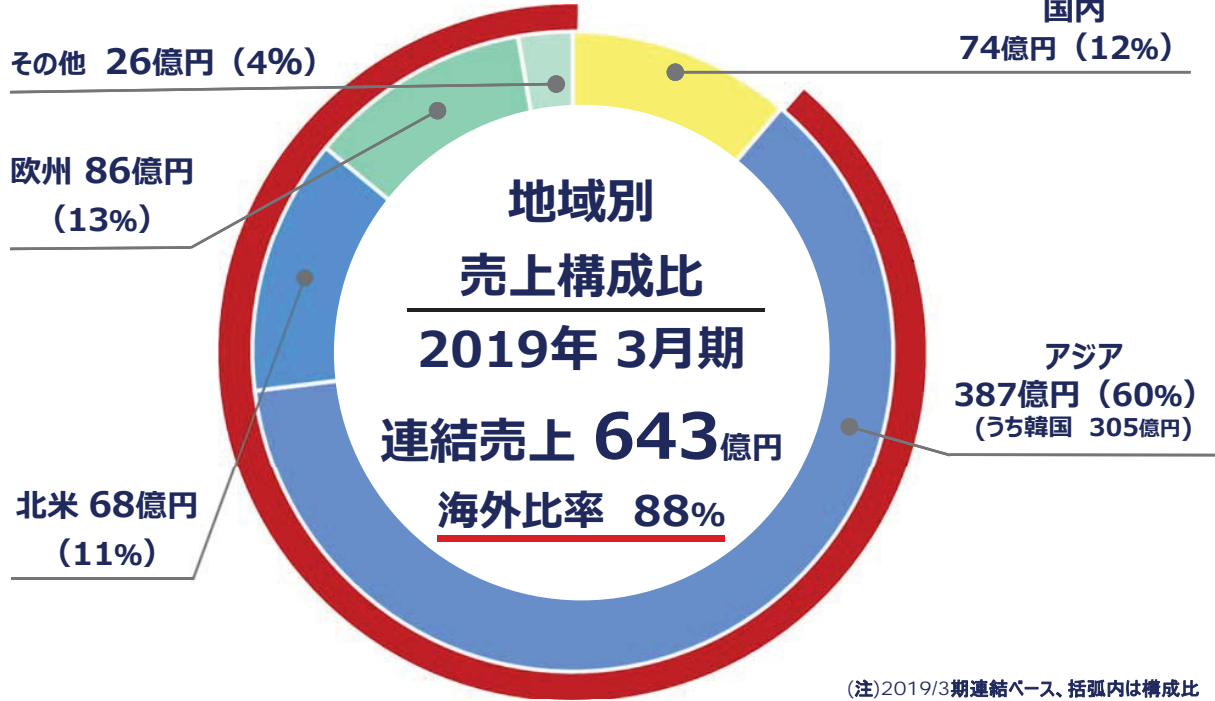


主要製品別
売上構成比
2019/3月期
連結



生産・販売ともにグローバルに展開 ①

販売は海外中心



生産・販売ともにグローバルに展開 ②

新車用は現代グループがメイン

(単位：億円)



(注)2019/3期連結ベース、括弧内は構成比



生産・販売ともにグローバルに展開 ③

